

医療コミュニケーション学・演習 (3年後期分) Medical Communication

医療科目 3～4年 / 前・後期 1単位 必修科目

科目責任者 町田 いづみ (医療コミュニケーション学研究室)

■ 教育目的

治療者としての認識を身につけること。

効果的治療に必要なコミュニケーション・スキルを向上させること。

■ 学習到達目標

1. 患者を全人的に理解し治療計画を立てることができる。
2. 患者の状態や状況に適切な医療面接について理解し実践することができる。
3. 予防医療の担い手として疾患を理解し適切な対応をすることができる。
4. 一般病棟で頻発する精神疾患を理解し適切に対応することができる。
5. 緩和医療を通して患者の全人的痛みを理解し対応することができる。

■ 準備学習 (予習・復習)

授業内で練習問題を提示する。

■ 授業内容

薬物治療の担い手として、予防医療の担い手として機能するために必要となる、基本的な知識について講義する。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1～4	医療コミュニケーションの基礎	* 薬剤師に必要な医療コミュニケーション * コミュニケーション・スキルの基礎 * 医療面接の基礎 * 患者心理の理解と対応 ◎各回「薬剤師物語」ビデオ視聴	A (2) -1-3 A (3) -1-1～3 A (3) -2-1～3
5	性格傾向と疾患	* 強迫性障害・強迫的性格傾向：不安障害 －その理解と対応方法－	A (2) -1-3 A (3) -1-1～3 A (3) -2-1～3
6～7	予防医療	* アルコールに関連した精神疾患 * 統合失調症 －病気の理解と受診援助－	A (2) -1-3 A (3) -1-1～3 A (3) -2-1～3
8～9	一般病棟で見られる精神疾患	* うつ病／睡眠障害の評価 * 認知症／せん妄 －病気の理解と対応方法－	A (2) -1-3 A (3) -1-1～3 A (3) -2-1～3
10～11	緩和医療	* 疼痛コントロールのための薬物治療 * 緩和医療における患者心理の理解と対応	A (2) -1-3 A (3) -3-1～4
12	まとめ 演習の解説	* 授業の復習 * 来年度演習の解説	A (2) -1-3 A (3) -3-1～4

■ 授業分担者

NO.1～9、11～12：町田 いづみ、NO.10：伊東 明彦

■ 成績評価方法

期末試験 (80%)、演習 (20%) (但し演習出席は必須とする) で総合評価を行う。

■ 教科書

『服薬援助のための医療コミュニケーション・スキル・アップ』町田 いづみ 著 (星和書店)

■ 参考書

『薬剤師・薬学生のための医療コミュニケーション学』町田 いづみ 著 (じほう)

『臨床研修医指導手引き』保坂 隆 編集 (診断と治療社)

■ その他

注：本講義は3年後期と4年前期をあわせて1単位とする。

医療コミュニケーション学・演習 (4年前期分) Medical Communication

医療科目 3～4年／前・後期 1単位 必修科目

科目責任者 町田 いづみ (医療コミュニケーション学研究室)

■ 教育目的

患者さんの背景は一人ひとり異なる。しかし、個々の患者情報が理解できなければ、効果的な薬物治療を提供することはできない。一臨床家として患者さんと向き合い、過不足ない情報をもとにした効果的な薬物治療を提供できる薬剤師の育成を目的とする。

■ 学習到達目標

1. 治療者としての適切な身なり、言動をもって医療面接を行なうことができる。
2. 双方向性の面接を通して、薬物治療に必要な患者情報を過不足なく収集することができる。
3. 収集した情報を適切に評価することができる。
4. 評価した内容を基に効果的な治療的介入をすることができる。
5. 患者の立場や価値観に立って話を聴くことができる。
6. 患者の感情を感じとることができる。
7. 患者と薬剤師間で情報を共有することができる。
8. 医療面接の内容を適切に記録することができる。

■ 準備学習 (予習・復習)

予習：演習資料に指定したレポートを作成すること。

■ 授業内容

プロの役者の方に患者役を依頼し、実践的な演習を行なう。具体的な演習方法や症例に関しては、演習資料を参考にする。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	演習Ⅰ・Ⅱ	薬剤師として治療場面を体験する。 演習Ⅰ：外来患者への薬物治療を体験する 演習Ⅱ：入院患者への薬物治療を体験する	A (2) -1-3 A (3) -1-1～3 A (3) -2-1～3 A (3) -3-1～5 C15 (2) -2-3～5

■ 授業分担者

町田いづみ、白石奈緒美 (非常勤講師)

■ 成績評価方法

期末試験 (80%)、演習 (20%) (但し演習出席は必須とする) で総合評価を行う。

■ 教科書

『服薬援助のための医療コミュニケーション・スキル・アップ』町田 いづみ 著 (星和書店)

■ 参考書

『薬剤師・薬学生のための医療コミュニケーション学』町田 いづみ 著 (じほう)

『臨床研修医指導手引き』保坂 隆 編集 (診断と治療社)

■ その他

本講義は3年後期と4年前期をあわせて1単位とする。

3年生後期では講義を通して知識と対応方法を理解する。4年生前期では、3年時の講義内容を基礎として演習をおこなう。演習内容および症例の詳細に関しては、3年後期の講義内で配布する資料に示す。資料を十分に読み、必ず予習を行なうこと。